

今回は、受験者が最も多い道路の科目を対象に、専門論文の書き方を解説する。道路の筆記試験の合格率は21.6%で、前年度比10.5ポイント増と、ほかの科目よりも大幅に上がった。なぜ差が付いたのだろうか。

2007年度の道路の出題形式では、必須問題1問と、選択問題5問から1問の計2問に答える。これらの6問のうち3問が、「事例を示し、道路整備のあり方を述べよ」という題意だった。受験者は、経験や事例に基づいて応用能力を表現しやすかったのではないかな。

残りの3問は従来通り、一般論を問うような問題だった。ただし、2006年度までと比較して、課題をいかに根底まで掘り下げ、解決策を展開するかが、応用能力を表すカギとなった。

以下のような設問例を基に、記述方法の悪い例と良い例から応用能力の示し方を確認しよう。

設問：道路構造物の安全など本来の役割を確保するため、維持管理・更新の課題と今後のあり方についてあなたの意見を述べよ。

この設問に対して最も多いと思われる解答は、「維持管理や更新で顕在化した問題を抽出し、対症的にあり方を論じる」というものだろう。これ

### ●「道路」の専門論文における悪い記述例と良い記述例

(設問は本文を参照)

[悪い記述例]

設問の文意通りの課題を挙げて、個々の課題について対症的に解決策を論じる

「安全確保のためには、道路機能の維持が必要で、点検や清掃を徹底させる。道路の震災対策には耐震補強を実施して耐久性の向上を…」

[良い記述例]

設問から社会背景を読み取って、対症的に施策を進めても問題の先送りにならないことを前提に解決策を論じる

「財政難のため社会ニーズに合わせた効果的な投資が必要。例えば、市街地と郊外では重要視する機能が違う。集約化が進む市街地では…」

では、課題の掘り下げ方が浅い。

具体的には、以下のような書き方だ。「道路構造物の安全確保のために機能を維持、向上することが重要だ。また、耐久性も考える必要がある。そこで、舗装や橋梁などの道路施設の点検や清掃、巡回による日常的な管理を徹底させる。耐久性の向上には、震災対策のための…」。

これでは応用能力が表現されておらず、一般論に終始した論文と見なされてしまう。2007年度の複数の受験者に話を聞いたところ、こうした論文では合格は難しかった。

### 「対症的ではだめ」との視点で

合格に近づくためには、限られた財源や社会資本整備計画から社会背景を分析し、「対症的に施策を進め

ても破綻する」ととらえ、解決策を論じることが重要だ。それらを踏まえて以下のように解答すればよいだろう。

「今後、道路構造物の安全や機能を確保するには、構造物や道路事業だけを対象に考えるのでは不十分だ。とはいえ、すべての構造物を対象にするのでは事業費が足りない。日々変化する社会ニーズや財政難に対応して、効果的に投資することが課題となる。

例えば、集約化が進む中心市街地では自動車交通よりも歩行者のための機能が重要視される。一方で、郊外では物流のための交通の機能が必要となる。これらを考慮して、アセットマネジメント手法などを用いて重点的に投資個所を決めることが求められる。

私が担当した〇〇道路改良事業では、まちづくりの方向性に合わせて、車線数を一つ減らして歩道を拡幅する試みを…」。

悪い事例と良い事例で、課題のとらえ方が異なる点に着目してほしい。社会背景を踏まえて、自分の体験に結び付けて説明することで応用能力をアピールできる。

いよいよ4月から受験申込書の受け付けが始まる。今回は、受験申込書の戦略的な書き方を説明する。



トマル経営技術コンサルタント代表  
外丸 敏明

## 第4回◎専門論文の書き方②

# 社会背景を体験に結び付ける